

Briefing Transcription

|| 2026 年 3 月期 通期 決算説明会文字起こし ||

フルハシ E P O 株式会社

9221 東証スタンダード・名証メイン市場

企業情報はこちら >>>

2025 年 12 月 4 日 (木)



FISCO Ltd.

<https://www.fisco.co.jp>

■ 目次

■ 出演者	01
■ 冒頭のあいさつ	02
■ 決算説明	03
■ 質疑応答	14

■ 出演者

フルハシ E P O 株式会社
代表取締役社長

山口 直彦様

フルハシ E P O 株式会社
取締役管理本部長兼総務部長

上野 徹様

■冒頭のあいさつ

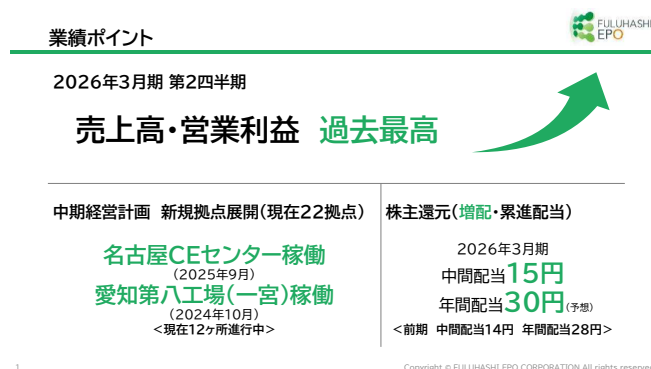


■フルハシEPO 山口様

皆様、こんにちは。フルハシEPO株式会社 代表取締役社長の山口でございます。本日はお忙しい中、お時間を頂戴し、誠にありがとうございます。

日頃より当社に対しまして、皆様から多大なるご支援とご指導を賜っておりますこと、心より御礼申し上げます。それでは、資料に沿ってご説明いたします。どうぞよろしくお願いいたします。

決算説明



まず、業績のポイントをご紹介します。2026 年 3 月期第 2 四半期は、売上高・営業利益ともに過去最高を達成いたしました。特に売上高は、6 期連続で過去最高を更新しております。

続いて、中期経営計画についてご説明いたします。中期経営計画における拠点展開では、本年 9 月に名古屋 C E センターが稼働いたしました。この「C E」は、サーキュラー・エコノミー (Circular Economy) の頭文字を取ったものです。

さらに、現在 12 か所の拠点については進行中であり、順次、許認可の申請作業等へ移行している状況です。最後に株主還元について申し上げます。2026 年 3 月期の中間配当は 15 円、期末配当も 15 円を予定しており、通期で 30 円の配当となる見込みです。前期比で 2 円の増配となります。



目 次

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績
2. 2026年3月期 業績予想
3. 中期経営計画進捗(成長戦略・株主還元)
4. トピックス

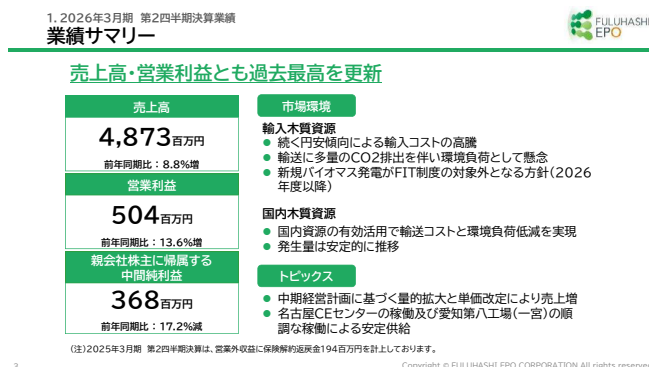
2 Create Sustainability for Our Future

続いて、本日の目次をご説明いたします。本日は、こちらの 4 項目についてお話しします。

フルハシ E P O株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

まず 1 点目に、2026 年 3 月期第 2 四半期の決算業績をご説明いたします。2 点目に、3 月期通期の業績予想についてお伝えいたします。3 点目に、中期経営計画の進捗状況をご説明し、最後に 4 点目としてトピックスをご紹介します流れとなっております。



それでは、業績の説明に入ります。まずサマリーとして、2026 年 3 月期第 2 四半期は、売上高・営業利益ともに過去最高を更新いたしました。売上高は 48 億 7,300 万円、営業利益は 5 億 400 万円、中間純利益は 3 億 6,800 万円となっております。

次に、市場環境についてご説明します。主力であるバイオマテリアル事業は、輸入木質燃料チップとの競合関係にあります。しかし現在、為替の円安により輸入木質燃料チップのコストが大きく上昇しています。また、海外から長距離輸送されるため、輸送時に発生する CO2 排出量の増加が懸念されています。

一方、当社の木質燃料は国産エネルギー源であり、輸送距離が短く、CO2 排出量を抑えられる点で環境負荷の低減に寄与しています。さらに、建設系や事業系を中心とした木質系廃棄物の発生量は安定しており、空き家問題など社会課題として増加する資源も、今後は有効な原料として活用されていく見通しです。

続いて、トピックスについてご説明します。まず、中期経営計画に基づく量的拡大として、前期に稼働した愛知第八工場が引き続き寄与しております。また、輸送コストや電力単価の上昇に伴い製造原価が増加しているため、製品単価の改定を実施しました。この単価改定が売上増加にもつながっています。

さらに、本年 9 月には中日本地域の新たな拠点として、名古屋 C E センターが稼働を開始いたしました。こちらも今期の大きなトピックスであると考えております。

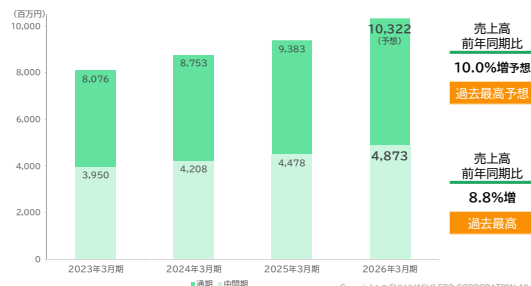
フルハシ EPO 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績

売上高

バイオマテリアル事業、資源循環事業を柱に、サーキュラーエコノミーの実現に貢献



次に、売上高の推移についてご説明いたします。2026 年 3 月期第 2 四半期の売上高は 48 億 7,300 万円となり、前年同期比 8.8%の増加となりました。6 期連続で過去最高を更新しており、順調に推移しております。

また、2026 年 3 月期通期の売上高は 103 億 2,200 万円を予想しております。こちらも前年同期比 10%の増加を見込んでおり、通期ベースでも 6 期連続の過去最高更新となる見通しです。非常に安定的な成長軌道にあると考えております。

この売上拡大は、主力であるバイオマテリアル事業と資源循環事業の成長によるものです。これら 2 つの事業を通じ、サーキュラーエコノミーの実現や資源循環型社会の形成に、これまで以上に貢献していきたいと考えております。

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績

損益計算書

売上高・営業利益とも過去最高を更新

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期			
	実績	実績	前年同期比	構成比	予想
売上高	4,478	4,873	+8.8%	100.0%	4,994
売上総利益	1,998	2,130	+6.6%	43.7%	2,334
営業利益	444	504	+13.6%	10.4%	609
経常利益	662	498	△24.8%	10.2%	603
親会社株主に帰属する 中間純利益	444	368	△17.2%	7.6%	397

(注) 2025年3月期 第2四半期決算は、営業外収益として保険解約返戻金が 194 百万円を計上しております。

次に、損益計算書についてご説明いたします。繰り返しになりますが、売上高は 48 億 7,300 万円で、前年同期比 8.8%の増加となりました。営業利益は 5 億 400 万円で、前年同期比 13.6%の増加です。

一方で、経常利益は 4 億 9,800 万円となり、前年同期比 24.8%の減少となりました。その結果、中間純利益も 3 億 6,800 万円となり、前年同期比 17.2%の減少となっております。

この減少要因についてご説明します。前期は、営業外収益として保険解約返戻金が 1 億 9,400 万円計上されておりました。しかし今期は同様の収益が発生しておりません。この差分が大きな要因となり、今期の経常利益および中間純利益が前年を下回る結果となりました。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績

セグメント売上高・利益(前年同期比)



- バイオマテリアル事業 量的拡大と付加価値化により売上高9.1%増
 - 資源循環事業 量的拡大により売上高14.6%増
 - その他事業 物流機器販売や解体スポット案件の減少により売上高4.4%減
- (百万円)

	セグメント売上高			セグメント利益又は損失(△)		
	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	前年同期比
バイオマテリアル事業	3,262	3,559	+9.1%	469	450	△4.0%
資源循環事業	712	816	+14.6%	△10	35	—
その他事業	718	686	△4.4%	△6	24	—
調整額	△214	△189	—	△9	△6	—
連結合計	4,478	4,873	+8.8%	444	504	+13.6%

(注)セグメント別売上高には、セグメント間の内部売上高又は振替高を含みます。セグメント別利益は、中間連結損益計算書の営業利益と調整しています。

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続いて、セグメント別の売上高と利益についてご説明いたします。

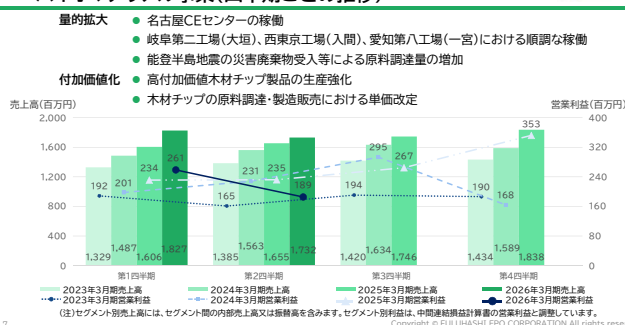
当社の主力セグメントであるバイオマテリアル事業は、木質資源を活用し、日本の循環型社会をつくるという思いで展開している事業です。こちらの売上高は前年同期比 9.1% 増となりました。

次に資源循環事業です。この事業は、建設系廃棄物を木材に限定せず幅広い廃材を資源化する取組みを行っています。また、拠点の量的拡大が進んだことにより、売上高は前年同期比 14.6% 増となりました。

最後にその他事業です。物流機器の販売、環境コンサルティング、人材派遣、さらには当社が多数の拠点を運営していることから、拠点運営に伴う警備業務などを含んでいます。売上高は 6 億 8,600 万円となりました。

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績

バイオマテリアル事業(四半期ごとの推移)



こちらのグラフは、バイオマテリアル事業における四半期ごとの売上高と営業利益を示したものです。営業利益は折れ線グラフで表しています。

バイオマテリアル事業では、量的拡大と付加価値向上に取り組むことで、堅実に業績を伸ばしています。図は上場後 4 年間の四半期推移を示しており、左から第 1 四半期、第 2 四半期、第 3 四半期、第 4 四半期と並んでいます。いずれの期間も着実に右肩上がりの成長を続けています。

決算説明

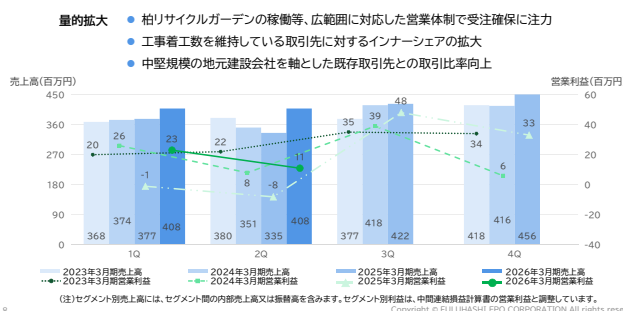
量的拡大については、2022 年の上場後に稼働した岐阜第二工場、西東京工場、さらに昨年稼働した愛知第八工場が順調に稼働していることが背景にあります。加えて、本年 9 月に開設した名古屋 C E センターも、下期の第 3・第 4 四半期の業績に寄与する見込みです。

また、前期および今期にかけては、能登半島地震により発生した木質系災害廃棄物の受け入れを行いました。昨年後半から今年の上期にかけて災害廃棄物を再資源化しております。自然災害が発生すると、大量の廃棄物が生じるという現実があり、当社の事業はその再資源化や被災地の復旧支援にも貢献しています。昨日も熊本で震度 5 の地震があったと報じられていますが、こうした災害への迅速な対応を可能とする体制づくりを今後も強化してまいります。

続いて、付加価値化についてご説明します。木材チップと一口にいても、用途によって求められる品質は異なります。燃料として使用されるものから、木質繊維板や紙パルプ原料として使用される高品質なものまで幅があります。原料系の製品は高い品質が求められるため、製品単価も上昇します。当社では、このような高付加価値品の製造を強化することで、さらなる収益性向上を図っております。

1. 2026 年 3 月期 第 2 四半期決算業績

資源循環事業(四半期ごとの推移)

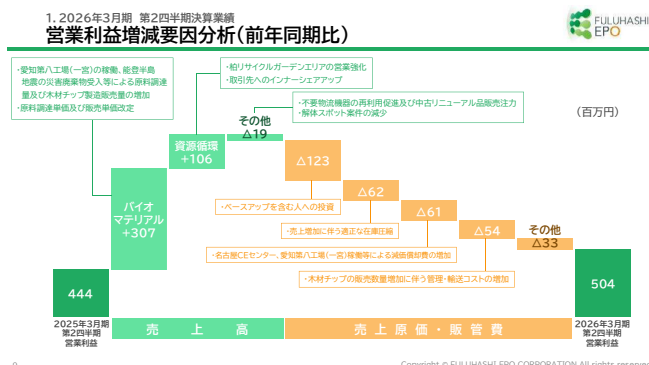


次に、資源循環事業の四半期ごとの推移についてご説明いたします。こちらの事業は、現段階ではまだ拠点数が十分ではありません。そのため、バイオマテリアル事業の拠点展開が一巡したタイミングで、本格的に拠点拡大のスピードを上げていく計画です。

資源循環事業では、量的拡大に努めております。具体的には、取引先のインナーシェアの拡大や、サービス提供エリアの拡大などにより、事業規模の拡大を進めているところです。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明



次に、営業利益の増減要因についてご説明いたします。2026 年 3 月期第 2 四半期の営業利益は 5 億 400 万円となっております。

主な増加要因は売上の伸びです。バイオマテリアル事業で 3 億 700 万円、資源循環事業で 1 億 600 万円の増加となり、両事業合計で 4 億 1,300 万円の売上が営業利益に寄与しました。

一方で、人的投資も行っております。ベースアップを含む人件費増加が 1 億 2,300 万円発生しております。ベースアップを含めた賃上げは 3 期平均で 5% 以上の水準で実施しており、今後も人的投資として高い水準での支出が見込まれます。また、木材チップの販売数量増加に伴う輸送コスト上昇が 5,400 万円発生しております。これらの増減を踏まえ、営業利益は前期比 6,000 万円増加し、5 億 400 万円となりました。

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績
貸借対照表

中期経営計画達成に向けた積極的な設備投資

- 資産は名古屋CEセンターの稼働や工場新設に向けた設備投資により増加
- 負債は短期借入金増加により増加、純資産は純利益計上等により増加

(百万円)

	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減額	主な要因
流動資産	2,580	2,262	△318	現預金の減少
固定資産	9,588	10,297	708	設備投資による増加
資産合計	12,169	12,559	390	
流動負債	3,455	3,723	267	短期借入金の増加
固定負債	3,121	3,017	△103	長期借入金の減少
純資産	5,591	5,817	226	配当金支払・純利益計上
負債・純資産合計	12,169	12,559	390	

10 Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に貸借対照表についてご説明いたします。中期経営計画の達成に向け、現時点で積極的に設備投資を行っております。中期経営計画期間中には、約 100 億円の投資を予定しております。

本第 2 四半期では、名古屋 C E センターやその他新設工場の建設および設備投資を実施しており、その結果、固定資産は 7 億 800 万円増加いたしました。これにより、資産の合計は 125 億 5,900 万円となっております。一方で、短期借入金は増加しましたが、長期借入金は減少しており、借入金の総額自体は大きく変動しておりません。以上が貸借対照表の概要です。

決算説明

1. 2026年3月期 第2四半期決算業績
キャッシュ・フロー計算書



中期経営計画達成に向けた投資キャッシュ・フローのマイナス

- ・営業キャッシュ・フローはバイオマテリアル事業の堅調な利益確保によりプラス
- ・投資キャッシュ・フローは有形固定資産の取得による支出により大幅なマイナス
- ・財務キャッシュ・フローは長期借入金返済による支出によりマイナス

(百万円)

	2025年3月期 第2四半期	2026年3月期 第2四半期	主な要因
	実績	実績	
営業キャッシュ・フロー	669	666	純利益の計上
投資キャッシュ・フロー	△1,133	△758	有形固定資産の取得による支出
財務キャッシュ・フロー	△202	△124	短期借入金の増加、長期借入金返済による支出
現金及び現金同等物の増減額	△663	△220	
現金及び現金同等物の中間期末残高	1,649	772	

11

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、キャッシュフロー計算書についてご説明いたします。営業キャッシュフローは、バイオマテリアル事業の利益確保により 6 億 6,600 万円のプラスとなっております。

一方で、中期経営計画に基づく設備投資を進めたため、投資キャッシュフローは 7 億 5,800 万円のマイナスとなっております。

財務キャッシュフローについては、先ほど申し上げた通り、短期借入金の増加がありますが、一方で長期借入金の返済等があり、1 億 2,400 万円のマイナスとなっております。

以上により、中間期末残高は 7 億 7,200 万円となっております。

2. 2026年3月期 業績予想
通期業績予想



売上高、売上総利益、営業利益は過去最高を更新予定

(百万円)

	2025年 3月期	2026年3月期				2026年3月期 第2四半期	
	実績	業績予想	増減額	増減率	実績	進捗率	
売 上 高	9,383	10,322	938	+10.0%	4,873	47.2%	
売 上 総 利 益	4,295	4,757	462	+10.8%	2,130	44.8%	
営 業 利 益	1,152	1,303	150	+13.1%	504	38.7%	
経 常 利 益	1,432	1,335	△97	△6.8%	498	37.3%	
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 (中 間) 純 利 益	1,033	905	△127	△12.4%	368	40.7%	

12

Copyright © FULHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続きまして、通期の業績予想についてご説明いたします。2026 年 3 月期の通期業績予想は、こちらの表の通りです。今期も売上高、売上総利益、営業利益のいずれも過去最高を更新する見込みです。具体的には、売上高 103 億 2,200 万円、売上総利益 47 億 5,700 万円、営業利益 13 億 300 万円を計画しております。

中期経営計画の目標達成に向けては、本年 9 月に稼働した名古屋 C E センターの本格稼働が大きく寄与する見込みです。また、当社のサービスエリア内でのシェア拡大も、今後の業績に大きく貢献してまいります。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

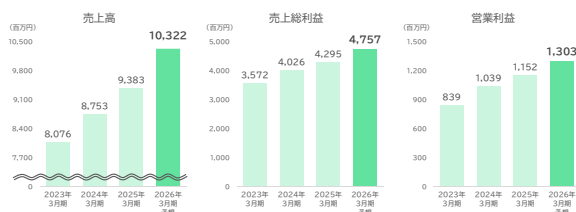
決算説明

2. 2026年3月期 業績予想
通期業績予想(推移)



2026年3月期についても

売上高、売上総利益、営業利益は増収増益の業績予想



13

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

次に、通期業績予想の伸び率についてご説明いたします。売上高は 103 億円で、前期末比 10% の増加を見込んでおります。売上総利益も 10.8% の増加を予想しています。さらに、営業利益は右肩上がりで、通期予想では 13.1% の増加を見込んでおります。

中期経営計画の実現に向け、今後も安定的かつ継続的に業績を向上させていく見通しです。以上が、通期業績予想の概要となります。

3. 中期経営計画進捗(成長戦略・株主還元)
中期経営計画の進捗概要



中期経営計画方針

本質資源を軸にしたサーキュラーエコノミー・再生可能エネルギー時代の牽引
増収・増益・増配・従業員還元をサステナビリティ企業へ

事業戦略(重点的拡大)

- 重要市場(海外を含む)による機能的な強化
- 中日本エリア及び東日本エリアを中心に工場を新設
- 年間100万トンを目標とするバイオマス取引量体制を目標

サステナビリティ戦略

ESG各項目による企業価値向上

- 機能的な組織変更(課題解決型の組織体制)
- 生産工程等の導入促進及び輸送効率化
- 環境対策推進、人材育成
- 地域社会の安心安全への取組み等
- 実質的ガバナンス強化(取締役会の実効性向上)等
- 非財務情報開示の充実等

株主還元

重要配当を基本方針とした株主還元

- 将来的な連結配当性向は35%程度を目標

進捗トピック

- 愛知製鋼工場(一期)稼働(2024年10月)
- 名古屋CEセンター稼働(2025年9月)

進捗トピック

- 組織変更として、経営戦略本部、事業開発部門、サステナビリティ推進部門等を設置(2024年4月)
- グループ内事業所(製造事業の増強及び組織強化)
- 名古屋地区のバイオマス取引量の向上を目標(2025年1月)
- 監査等委員会設置会社への移行(2025年6月)
- 取締役会の実効性評価結果の開示(2025年6月)

2026年3月期 還元方針

- 一株当たり配当金2025年3月期 28円に引き上げ、2026年3月期 30円(予想)と増配・還元方針
- 2026年3月期末を基準とした株主優待制度を導入

中計の基本方針・戦略は堅持・実現に向けて戦略を強化

14

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続きまして、中期経営計画の進捗についてご説明いたします。当社の中期経営計画は「Fuluhashi Sustainable Plan 80th」と称しており、現在計画に沿って進行しております。

まず、中期経営計画全体の進捗状況の概要をご説明します。左側のグリーン部分が計画の内容を示し、右側のブルー部分が現在の進捗状況です。

これまでもご説明しましたが、2025 年 9 月に名古屋 C E センターが稼働しました。中日本地区における中核拠点となる施設であり、今後の業績に大きく寄与することが期待されます。2025 年 6 月には従来の監査役会設置会社から監査等委員会設置会社へ移行いたしました。また、取締役会の実行性評価結果の開示を行い、さらに任意の報酬委員会や指名委員会の設置により、取締役会の監査機能の強化、監視体制の強化を整えております。

フルハシ E P O株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

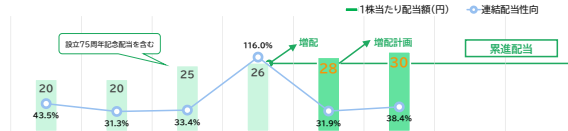
決算説明

次に、2026 年 3 月期の株主還元方針についてです。中間配当・期末配当ともに 15 円ずつ、年間合計 30 円を予定しており、前期から 1 株当たり 2 円の増配となります。また、2026 年 3 月期末を初回基準日として株主優待制度を導入いたしました。以降は 9 月末及び 3 月末時点で 200 株以上を保有する株主様を対象に、株主優待を実施する予定です。

3. 中期経営計画進捗(成長戦略・株主還元)

中期経営計画の進捗状況(株主還元)

- 株主還元拡大のために、
 1. 原資である利益の確保
 2. 事業成長及びサステナビリティ関係の適切な投資
 3. 健全な財務体質の確保
- 現中計期間(2025年3月期～2028年3月期)は累進配当を基本とします
- 成長投資も継続しつつ、将来的な連結配当性向は35%程度を目指します
- 株主の皆様への利益向上と、より多くの投資家の皆様に当社株式を保有して頂くため、今期末を基準とした株主優待制度を導入します



【補記】2023年4月1日付で普通株式1株につき、2株の割合で株式分割を行っております。
上記グラフでは2023年4月1日以前においても株式分割の効力を加味して再換算した配当金を用いております。
Copyright © FULLHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続きまして、中期経営計画の進捗状況の中で、株主還元に関する方針についてご説明いたします。
2026 年 3 月期の年間配当は、先ほど申し上げた通り 30 円を予定しております。配当方針としては、利益の確保と適切な投資、さらに健全な財務体質の維持に努めながら、安定的な配当を行うことを基本としています。この配当方針は、中期経営計画期間である 2028 年 3 月期まで継続して実施してまいります。今期 30 円を皮切りに、来期以降も成長投資を継続しつつ、連結配当性向 35%を目標として配当を行う予定です。さらに、株主の皆様への還元を強化し、より多くの投資家の皆様に当社株を保有していただくため、2026 年 3 月期末を初回基準日として株主優待制度を導入いたしました。以上が、株主還元に関する中期経営計画の方針です。

3. 中期経営計画進捗(成長戦略・株主還元)


中期経営計画の進捗状況(重視する定量目標)

本質再資源化の量的拡大を着実に実行し、最終年度での目標達成を目指します
具体化した案件から順次開示することとし、12ヶ所の工場新設が進行しています

目標設定時	成長準備		成長投資		成長加速
	・高層化 (新築・改修、本社・事業所等)		・持続可能な環境対策 (12ヶ所の工場新設)		・工場新設及びM&A活用等 ・更なる収益性・生産性の向上
2024年3月期 (実績)	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 第2四半期(実績)	2026年3月期 (計画)	2027年3月期 (計画)	2028年3月期 (計画)
売上高	87.5億円	93.8億円	48.7億円	103.2億円	150億円
営業利益	10.3億円	11.5億円	5.0億円	13.0億円	30億円
営業利益率	11.9%	12.3%	10.4%	12.6%	20%
ROE	5.2%	19.5%	—	15.3%	15%超

量的拡大の状況(2025年11月現在)

	国内工場棟	工場新設棟数及び予定
中国本土 エリア	16ヶ所	●愛知第八工場(一宮)(2024年10月稼働) ●名古屋センター(2025年9月稼働) ●名古屋東センター(2026年上期稼働予定) ●6ヶ所選定中
韓国本土 エリア	6ヶ所	●6ヶ所選定中
合計	22ヶ所	16ヶ所以上を予定の内、2ヶ所稼働、12ヶ所選定中





既存工場数	工場新設計画及び予定
中日本エリア	●愛知第8工場(一宮)(2024年10月稼働) ●名古屋CEセンター(2025年9月稼働) ●名古屋南地区モーター(2026年上期稼働予定) ●5ヶ所進行中
東日本エリア	●6ヶ所進行中
合計	16ヶ所以上を予定の内、2ヶ所稼働、12ヶ所進行中

【補記】中日本エリアには、近畿地方、中国地方を含みます。
Copyright © FULLHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

続きまして、中期経営計画の定量目標についてご説明いたします。
当社の中期経営計画は昨年度にスタートし、今年で 2 年目を迎えております。計画の定量目標としては、売上高 150 億円、営業利益 30 億円、営業利益率 20%、ROE15%超を KPI として掲げ、着実に進めております。

決算説明

また、現在 16 ヶ所以上の拠点を中期経営計画に基づき展開しており、木質廃棄物の処理量として年間 100 万トンを目指しております。これは国内市場の約 10% に相当します。この目標達成に向け、計画的に事業を進めてまいります。


4. トピックス

統合報告書



- ・ **ポイント①: トップメッセージ**
経営戦略や資本コスト、株価値を意識した経営の実現に向けた対応について掲載
- ・ **ポイント②: 中期経営計画**
中期経営計画の進捗状況について、定量目標・量的拡大・サステナビリティの観点から報告
- ・ **ポイント③: 社外取締役メッセージ**
コーポレート・ガバナンスや企業価値の向上に向け、多様な専門性と経験を持つ社外取締役が果たす役割についてメッセージ形式で掲載

統合報告書の閲覧はこちらから→



Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

そして最後になりますが、当社では統合報告書を発行しております。この統合報告書には、トップメッセージをはじめ、中期経営計画の詳細や社外取締役のメッセージなど、当社の情報を幅広く掲載しております。右側の QR コードからご覧いただけますので、ぜひご確認ください。



フルハシ E P O株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

決算説明

<参考資料>会社概要



社 名	フルハシEPO株式会社（英語名 FULUHASHI EPO CORPORATION）
上場証券取引所	東京証券取引所 スタンダード市場、名古屋証券取引所 メイン市場 証券取引コード: 9221
創 業	1947年12月
設 立	1948年2月
本 社	名古屋市中区金山一丁目13番13号
資 本 金	1,507百万円(2025年3月末)
従 業 員 数	483名(連結:2025年9月末)
事 業 内 容	● バイオマテリアル事業 ● 資源循環事業
関 係 会 社	● 連結子会社: 5社（国内3社・海外2社） ● 持分法適用関連会社: 2社（ともに国内）

19

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

本資料の取り扱いについて



- 本資料は、情報提供を目的としたものであり、当社株式等の特定の商品についての募集・投資勧誘・営業等を目的としたものではありません。
- 本資料に記載されている見解・見通し・予測等は、資料作成時点での当社の判断です。将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を確認された上で、ご利用ください。
- 本資料で提供している情報は万全を期していますが、その情報の正確性、完全性を保証するものではありません。また予告なしに内容が変更または廃止される場合がありますので、あらかじめご了承ください。
- 本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任を負いません。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】
フルハシEPO株式会社 総務部
Mail: 9221epo-ir@fuluhashi.co.jp

20

Copyright © FULUHASHI EPO CORPORATION All rights reserved.

以上をもちまして、2026 年 3 月期第 2 四半期の決算概要のご説明とさせていただきます。
当社は創業 78 年の歴史を有しておりますが、今後もベンチャースピリットを大切に、積極的な改善・改革を進めながら、成長と発展を続けてまいります。引き続き皆様のご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。
本日はご清聴、誠にありがとうございました。

質疑応答

▲司会者

これより質疑応答に移ります。

ご質問がある方は、Q&A 欄に会社名とお名前を記載のうえ、ご送信ください。なお、時間の都合上、すべてのご質問にお答えできない場合がございますので、あらかじめご了承ください。

それでは、Q&A に寄せられたご質問をご紹介します。

『バイオマテリアル事業のセグメント売上高は前年同期比で +9.1% でしたが、セグメント利益は前年同期比で -4.0% となっています。利益が前年同期比で減少した要因は何でしょうか』というご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

売上が増加しているにもかかわらず利益が低下した要因についてご説明いたします。

主な理由としては、既存工場の体制強化や新設工場稼働に向けた人員確保など、人材への積極的な投資を行っていることが挙げられます。また、昨年稼働した愛知第八工場や、今年 9 月に稼働した名古屋 C E センターにおける設備投資に伴い、償却費が増加しております。これらの要因が、利益水準に影響を与えた一因となっております。

しかしながら、これらの投資は一時的に利益に影響を与えるものの、生産能力の拡充や供給体制の強化といった、将来的な成長に直結する重要な取組みです。中期経営計画における量的拡大に向けた成長基盤の構築にもつながるものであり、今後も着実に進めてまいります。

▲司会者

続いてのご質問です。

『通期業績予想に対し、中間期の実績は、売上高が 47.2%、営業利益が 38.7%、当期純利益が 40.7% という進捗率となりました。通期では予想を達成できる見込みか、また、その根拠について教えてください』とのご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

通期目標の達成についてご心配の声をいただいておりますが、当社では売上・利益のトレンドとして、第 3 四半期、第 4 四半期の下半期において売上・利益ともに増加する傾向があります。これが通期目標達成の大きな要因となります。

また、上半期におきまして、昨年 10 月に稼働した愛知第八工場の本格稼働や、能登半島地震による災害廃棄物の受け入れによる復興支援などの取組みにより、連結売上は前年比 108.8%、営業利益は 113.6% となっており、順調に成長しております。

さらに、今年 9 月 16 日に稼働した中日本エリアの中核拠点である名古屋 C E センターも下半期に大きく寄与する見込みです。これにより、下半期で通期目標にキャッチアップできると考えております。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

質疑応答

▲司会者

続いてのご質問です。

『株主優待としてデジタルギフト 5,000 円分を年 2 回付与しており、非常に利回りが高い制度ですが、今後も継続していけるのでしょうか。優待によって株価を引き上げるための施策だと、短期間で廃止されてしまうのではないかと懸念しています』とのご質問です。

■フルハシ E P O 上野様

ご質問については、私からお答えいたします。株主優待制度につきましては、当社としては、長年ご支援いただいている株主の皆様への感謝の意を示すとともに、株式の流動性向上を目的として検討してまいりました。そして、11 月に制度を開示しました。

基本的には、株主の皆様の期待に応えること、また流通性の向上にも寄与することを重視しており、持続的に継続していく方針でございます。

デジタルギフトにつきましては、昨今の環境において、株主の皆様がより簡便に利用できることを考慮し、2 単元以上を保有する株主の方々に対して、半期ごとに 5,000 円分をお配りすることといたしました。引き続き、当社株式へのご支援をお願い申し上げます。

▲司会者

続いてのご質問です。

『新たに株主優待制度を導入した背景と、そこから期待している効果について教えてください』とのご質問です。

■フルハシ E P O 上野様

先ほども少し申し上げましたが、当社は機関投資家との対話などを通じて、株式の流動性が大きな課題であることを以前から認識しておりました。上場後には株式分割を実施し、説明会や個人投資家向けセミナーを継続的に行ってきました。その中で、特に個人株主の皆様から株主優待に高い関心をいただくことが多くありました。こうした背景を踏まえ、株主優待制度を導入することで株式の流動性向上に寄与できるのではないかと考えております。実際に株主優待制度を導入した後は、株主による株式の売買や売買株数が従来に比べて大きく改善しており、一定の効果があったと考えています。

今後も、企業価値の向上と IR 活動を通じて株価の上昇を目指すとともに、株主還元策を重要な経営課題の一つとして位置づけ、引き続き取り組んでまいります。

▲司会者

続いてのご質問です。

『中期経営計画の見通しと、株主還元策について教えてください』とのご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

当社の中期経営計画は現在、2 年目に入っております。初年度は、量的拡大に向けた用地確保や、選定などが中心となりました。

2 年目となる今年度は、一部の工場がすでに稼働を開始しており、今後は中期経営計画における拠点が本格的に稼働してまいります。これらの拠点は 10 数ヶ所に上る見込みで、順次立ち上がることにより、量的拡大も着実に進むと考えております。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

質疑応答

株主還元に関しては、中期経営計画期間中、累進配当の形で株主の皆様へ還元してまいります。配当性向は 35% を目標としており、現時点でもこの目標達成に向けて全社一丸となって取り組んでおります。今後とも、株主の皆様からのご支援を賜りますようお願い申し上げます。

▲司会者

続いてのご質問です。

『営業利益は前年同期比で 13.6% 増となった一方、親会社株主に帰属する当期純利益は 17.2% 減少しました。その理由は何ですか』とのご質問です。

■フルハシ E P O 上野様

先ほど社長も触れられましたが、前期には役員退職金準備のための保険解約金として、営業外利益に 1 億 9,400 万円を計上しておりました。これは、上場前に役員退職金の手当てとして加入していた保険解約によるものです。しかし上場後、株主の皆様のご同意を得て、RS 制度（株式報酬制度）に切り替えたことにより、保険による準備は不要となりました。これに伴い、過去 3 年間にわたり整備してきた解約処理も完了し、前期が最終年度となりました。そのため、今期からはこの保険解約金なくなり、経常利益や当期純利益は減少しています。一方で、本業の営業利益は順調に拡大しており、事業の成長基調に変わりはありません。以上の点をご理解いただければと思います。

▲司会者

続いてのご質問です。

『御社ビジネスモデルの強みとは、どのような点にあるのでしょうか』というご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

当社のビジネスモデルは、いわゆる「ダブルインカム型」と言えます。すなわち、売上が入る時だけでなく、支出が発生する際にも利益に直結する構造となっており、仕入れコストが発生しないため、高い利益率を確保できる点が大きな強みです。

二つ目の強みは、サービスエリアの広さです。当社は、この分野の事業者の中でも最も広いサービスエリアを持ち、事業を展開しています。この広域展開により、多くの顧客に安定的にサービスを提供することが可能です。三つ目の強みは、上場企業として当社が木質再資源化事業を主として展開している唯一の企業である点です。これにより、M&A や新規事業展開などを進める際にも、業界内で有利に展開できる基盤を持っています。以上のような強みにより、当社は持続的な成長と競争優位性を確保しており、今後も株主の皆様からのご支援・ご指導を賜りながら、事業拡大に取り組んでまいります。

▲司会者

続いてのご質問です。

『名古屋エリアでの業績が伸びていますが、今後も中部地方を中心に展開していくのでしょうか。また、他地域への進出はいつ頃になりそうか』というご質問です。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

質疑応答

■フルハシ E P O 山口様

当社の設立は、昭和 23 年に愛知県名古屋市中熱田区で行われました。ここは木材業が集まる地域であり、この地での創業・設立を通じて、同地区では一定の認知度をいただいております。そのため、まずは中部地方を中心に事業展開を行ってまいりました。

しかしながら、上場以前から関東エリアに拠点を有しており、上場後は南関東、北関東、さらには西日本地区にもサービスエリアを拡大する計画を進めています。今後も順次拠点を拡大してまいります。株主の皆様には、ぜひご期待いただきたいと考えております。

▲司会者

続いてのご質問です。

『工場の新設が続いていますが、人材確保についてはどのような対策を講じているのでしょうか』とのご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

人材確保は、多くの企業にとって重要な課題であり、当社にとっても最重要項目の一つです。先ほどの業績説明でも触れましたが、現在、従業員のベースアップを含めた賃上げは 3 年平均で 5% 以上実施しており、労働条件の改善に努めています。

同時に、工場の生産拠点においては AI やロボットによる無人化や少人化を進めております。これにより、1 人当たりの生産量を増加させることを目指しています。人的投資だけでなく設備投資によって人手不足の影響を抑えてまいります。

また、間接部門においても AI 導入を含め、効率化や自動化を進めつつ、必要最小限の人員で業務を維持できるよう努めています。これにより、売上・利益計画を着実に達成できる体制を整え、将来にわたる安定的な人材確保と業務運営に積極的に取り組んでおります。

▲司会者

続いてのご質問です。

『中期経営計画における各拠点の展開について、立ち上げが順調に進むかどうか想像しにくいので、もう少し具体的にご説明いただけないでしょうか』とのご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

拠点展開については詳細にご説明したいのですが、まだ開示できない部分もございます。現在の計画としては、中期経営計画に沿って、北関東・南関東や東海を中心に、拠点展開を進める予定です。

拠点の立地については、木材の発生量が多い地点を基にデータを分析し、輸送距離を最小限に抑える形で決定しています。物流面では、車両があってもドライバー不足などのリスクがあるため、製品を安定的に運搬できる体制を確保することが重要です。

こうした条件を踏まえ、国内全域をカバーする拠点展開を進めてまいります。具体的な拠点の場所については、現時点では公開できませんが、今後順次情報を開示してまいりますので、ぜひ開示情報をご覧くださいと思います。

フルハシ E P O 株式会社 | 2025 年 12 月 4 日 (木)
9221 東証スタンダード・名証メイン市場

質疑応答

▲司会者

続いてのご質問です。

『株主数の増加や株式の流動性向上について、どの程度重視しているのか、また具体的な対策について教えてください』とのご質問です。

■フルハシ E P O 上野様

当社にとって、株主数の増加や株式の流動性の向上は極めて重要な課題であると認識しています。そのためには、投資家の皆様が投資しやすい環境づくりと、個人投資家への認知拡大が不可欠です。

当社では、2023 年 4 月に株式分割を実施したほか、個人投資家向け説明会へ積極的に参加しています。今年は、5 月に東京、12 月に名古屋で個人向け IR セミナーへの参加を予定しております。

さらに、2025 年 11 月 12 日には株主優待制度の導入を発表しました。2026 年 3 月期末を初回基準日とし、その後は毎年 3 月末・9 月末を基準日に、当社株式を 200 株以上保有される株主様に対して年間 1 万円分のデジタルギフトを進呈する制度です。この取組みにより、個人株主の増加と株式の売買活性化、ひいては流動性向上が期待できると考えております。

また、流動性が高まることで、機関投資家の候補銘柄として当社を検討いただく機会も増えると思っております。引き続き、株主の皆様にとって魅力ある会社づくりを進めてまいります。

▲司会者

続いてのご質問です。

『石川県能登の被災地受け入れが 2025 年 6 月に終了したと伺いました。これにより、売上や利益への影響はどの程度になるのでしょうか』というご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

能登半島地震については、復旧に非常に長い時間を要した案件でした。当社では、前期から今期 6 月までの累計で約 1 万 1,000 トンの木材を受け入れ、再資源化を行っております。

一方で、当社全体の取扱量は足元で 60 万～70 万トンに達していることから、今回の受け入れ終了による売上・利益への影響は限定的であると判断しています。

以上の状況をご理解いただければ幸いです。

▲司会者

続いてのご質問です。

『競合他社と業界シェアについて教えてください』というご質問です。

■フルハシ E P O 山口様

木質再資源化事業は、当社がオイルショック後の 1970 年代に、木材を燃料として有効活用できないかという考えから取り組み始めた事業です。当時、この分野に「業界」と呼べるものは存在せず、当社は事業化におけるリーディングカンパニーとなりました。

しかし、当初は市場が十分に形成されておらず、生産しても安定した供給先を確保することが難しい時期が続きました。昭和 50 年代に入るまで、事業展開には多くの苦労があったというのが実情です。

質疑応答

その後、こうした経験を積み重ねる中で、当社は木質再資源化事業に関して豊富な知見とノウハウを蓄積してきました。加えて、この分野で上場している企業は当社のみであり、一定の立ち位置を確保しています。さらに、当社は「東海木材資源リサイクル協会」をはじめ、業界団体の立ち上げにも関わり、全国に先駆けてネットワーク基盤を構築してきました。現在では、関東、東北・北海道、九州まで広がる全国ネットワークが確立されており、これらのエリアでの展開が当社の競争力強化につながっています。このように、リーディングカンパニーとしての歴史、蓄積された知見、そして全国ネットワークの構築により、当社は業界内で非常に有利なポジションを確立しております。以上が当社の業界シェアおよび他社との差別化要因です。

▲司会者

ありがとうございました。それでは質疑応答を終了いたします。

以上をもちまして、フルハシ E P O 株式会社 第 2 四半期決算説明会ウェビナーを終了いたします。本日はご参加いただき、誠にありがとうございました。

重要事項（ディスクレマー）

株式会社フィスコ（以下「フィスコ」という）は株価情報および指数情報の利用について東京証券取引所・大阪取引所・日本経済新聞社の承諾のもと提供しています。本レポートは、あくまで情報提供を目的としたものであり、投資その他の行為および行動を勧誘するものではありません。

本レポートはフィスコが信頼できると判断した情報をもとにフィスコが作成・表示したものです。フィスコは本レポートの内容および当該情報の正確性、完全性、的確性、信頼性等について、いかなる保証をするものではありません。

本レポートは、対象となる企業の依頼に基づき、企業への電話取材等を通じて当該企業より情報提供を受け、企業から報酬を受け取って作成されています。本レポートに含まれる仮説や結論その他全ての内容はフィスコの分析によるものです。

本レポートに掲載されている発行体の有価証券、通貨、商品、有価証券その他の金融商品は、企業の活動内容、経済政策や世界情勢などの影響により、その価値を増大または減少することもあり、価値を失う場合があります。本レポートは将来のいかなる結果をお約束するものでもありません。お客様が本レポートおよび本レポートに記載の情報をいかなる目的で使用する場合においても、お客様の判断と責任において使用するものであり、使用の結果として、お客様になんらかの損害が発生した場合でも、フィスコは、理由のいかんを問わず、いかなる責任も負いません。

本レポートに記載された内容は、本レポート作成時点におけるものであり、予告なく変更される場合があります。フィスコは本レポートを更新する義務を負いません。

本文およびデータ等の著作権を含む知的所有権はフィスコに帰属し、フィスコに無断で本レポートおよびその複製物を修正・加工、複製、送信、配布等することは堅く禁じられています。

フィスコおよび関連会社ならびにそれらの取締役、役員、従業員は、本レポートに掲載されている金融商品または発行体の証券について、売買等の取引、保有を行っているまたは行う場合があります。

以上の点をご了承の上、ご利用ください。

■お問い合わせ■

〒107-0062 東京都港区南青山 5-13-3

株式会社フィスコ

電話：03-5774-2443（IR コンサルティング事業本部）

メールアドレス：support@fisco.co.jp